

# 羅針盤

No.49

東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4

電話 03-3790-1751

URL <http://www.tokometal.co.jp>

(見学受付)

電話03-3790-1751 又は 各営業担当

いよいよ4月です。「いよいよ」の心は、消費税アップということ。消費税のみならず、石油・天然ガス・石炭といったすべての化石燃料の利用に対し、環境負荷(CO<sub>2</sub>排出量)に応じて温暖化対策税も加わります。更に加えて高速料金は、税金を使った割引は原則として廃止され、消費税率引き上げ分を転嫁するため、大半の路線は値上げとなりました。ガソリンや軽油は収集運搬業にはかかせないものでし、遠路の運搬では高速も必要ですから経費には大きな影響が出るでしょう。辛い現実ですが、他に経費削減できるものを掘り出すために仕事の見直しをする良い機会と捉え、前向きに対応していくことで乗り切るのも一つの方法だと思います。

またこの冬は、寒波と大雪とでなかなか春は見えませんでしたでしたが、例年通りに桜が開花しました。朔日には川崎市内でツバメの飛来も確認されました。少しの間、桜の下で心を和ませ、今年も来るかもしれない猛暑の前に全身へ充電させましょう。

東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物の処理をお受けいたします。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



## 鉄・非鉄スクラップ・市況からの4月予測

営業部 Y の考察

### ☆羅針盤

- 鉄スクラップ** → 考察) 3月は東京製鉄宇都宮工場の特級が34,000円/トンでスタートし、電炉メーカーの減産、荷止めが相次ぎ 最終的には、29,000円/トン。2週間後5,000円/トンも落ちました。しかしながら、月末から輸出向けの値が上がり、国内電炉メーカーの品不足から、4月は多少上がると思われます。
- 銅** → 考察) ウクライナ等の国際情勢の悪化、円高が影響し、3月はLME7,090ドル/トン、国内銅建値780,000円/トンでスタートしたものの、最終的には710,000円/トン。一時は700,000円/トンまで下がりました。問題の4月ですが円安に振れているため、多少は戻すと思われます。
- アルミ** → 考察) 3月は、LME1,770ドル/トンでスタート。最終的には1,720ドル/トンで終了。一部上物に動きはありましたがほぼ変わらず。4月も横ばいと思われます。
- プラスチック** → 考察) プラのスクラップは、ここ数か月ほぼ変わらず。指定法人のペットボトルはかなりの高値がついているようですが4月も横ばいでしょう。

### 3月予測の自己評価

鉄スクラップ	○	アルミ	○
銅	×	プラスチック	×



## 私の野球人生

(最終回)

東港金属に入社して6年が経ち、48歳、人生の折り返し地点に来ています。

幼い頃から野球好きの私は、小学校4年生の時に地元の調布リトルリーグに入団して野球人生がスタートしました。厳しい練習に耐え、中学時代は上部の調布シニアリーグに入団できました。その思い出を9回に亘ってご紹介しましたが、これが最終回となりました。

中学生最後の野球生活は特に忘れることが出来ません。我々調布シニアは関東大会の準決勝戦で強豪杉並シニアに負け、関東第三代表で夏の全国大会に出場しました。前年先輩方が北海道で成し遂げた日本一の連覇という目標を背負い、また自分たちの代にも日本一になるという思いを込め、8月の猛暑の中、順当に決勝に勝ち進み、いよいよあと一戦になりました。対戦相手は又も杉並シニア、決勝という舞台で再び対戦することになったのです。

両チームの投手戦で始まり、4回まで0対0と緊迫した試合展開でしたが、5回ついに私たちが1点のリード、6回の杉並シニアの攻撃も0点に抑え、1対0のまま最終回の守りに入りました。このまま逃げ切れれば日本一ですが、リードしている私達には一つのミスも許されないプレッシャーがかかり、緊張の極みの中で守っていたことを思い出します。

先頭バッターを打ち取り、ワンアウト。続くバッターも抑え、いよいよ後一人で日本一です。そのバッターもツーストライクまで追い込み、最後の一球と思われましたが、その打球はレフト前に転がり同点のランナーが出てしまいました。

嫌な予感がしてきました。そして続くバッターはいきなり初球を打ち、その打球は、なんと私のはるか右横に転がってきて、センター前に抜けるかという鋭い打球でした。しかし、普段練習で厳しいノックを受けていた身体が自然に反応し、無我夢中で飛びついていました。

グローブを見ると、そこにはボールが入っており、急いで立ち上がり一塁へ送球。ランナーと同時ぐらいのタイミングでしたが・・・審判の手が上に挙がり、アウトのコールです。一瞬頭が真っ白になり、ベンチを見ると、みんなが両手を挙げて飛び出して来ていました。

勝ったんだ、日本一になったんだと、私もピッチャーマウンドに行き、喜びをあらわにみんなと抱き合い、最高の気持ちだったことを今も思い出します。

三年間の辛かったことなどを、いろいろ思い出し、自然と涙が出ており、試合終了の整列時には、勝った私達、負けた杉並シニアの選手達もお互い泣きじゃくり、どっちが勝ったのかわからないほどでした。

こうして、私達調布シニアは2年連続日本一を勝ち取り、自分達の代でも日本一を取るという、私の目標が達成された瞬間でありました。

何事においても日本一を取るという経験は今後もなかなか体験できないと思いますので、私の人生の中でも貴重な体験でした。

今も今後も、この野球一筋での貴重な体験を生かし、仕事に励んで参ります。永い間お読みいただき、ありがとうございました。(了)

溝口 仁(営業部 課長代理)

## データで見る 産業廃棄物処理業の許可等の状況

今回は、環境省の報道発表資料を参考に、産業廃棄物処理施設の設置、産業廃棄物処理業の許可等に関する状況をお伝え致します。特別管理を含む産業廃棄物処理業の許可件数を図-1に示します。許可件数が平成22年の320,615件から23年の233,930件に大幅に減少したのは、廃棄物処理法の改正により、許可が合理化されたことによります。

産業廃棄物の排出量と中間処理施設数を図-2に示します。排出量は、やや減少傾向ですが、年間4億トン弱で大きな変化はなく、中間処理施設の数も、平成13年以降は、概ね2万弱で推移しております。

最終処分場の残存容量と残存年数を図-3に示します。残存容量は、新規登録もありわずかに増加傾向ですが残存年数は右肩上がりの状況です。これは、排出時の選別と中間処理施設での再資源化等が進み図-4で示すように、最終処分量が大幅に減少しているため、今後この傾向が進むものと思われます。

図-1 特別管理及び産業廃棄物処理業の許可件数の経年変化

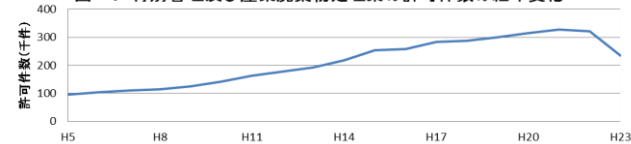


図-2 産業廃棄物排出量と中間処理施設数の経年変化

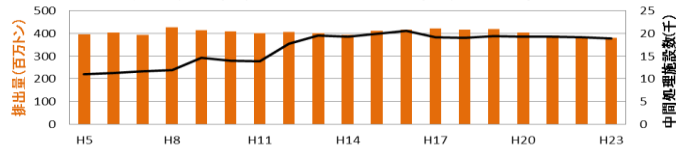


図-3 最終処分場の残存容量と残存年数の推移

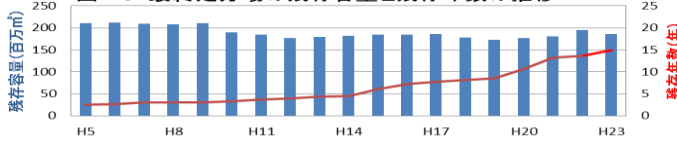


図-4 最終処分量の推移

